

令和5年度第2回小牧市環境審議会 議事録

日 時	令和5年11月8日(水) 午後2時30分～午後3時35分
場 所	小牧市役所 本庁舎6階 601会議室
出席者	<p>【委員】(50音順)</p> <p>○石川 英里 中部大学工学部教授 今枝 正 こまき環境市民会議会長 岡村 恵美 公募委員 酒井 美代子 小牧市女性の会会長 田上 昭典 小牧市小中学校校長会 馬場 容子 公募委員 宮脇 稔 愛知県地球温暖化防止活動推進員</p> <p>◎山本 敦 中部大学応用生物学部教授 吉本 三広 市内事業所推薦</p> <p>※ ◎会長 ○副会長</p> <p>【事務局】</p> <p>入江 慎介 市民生活部長 小川 正夫 市民生活部次長 梅村 知成 環境対策課長兼ゼロカーボンシティ推進室長 鈴木 尚紀 ごみ政策課長兼ゼロカーボンシティ推進室主幹 古田 麻紀子 環境政策係長兼ゼロカーボンシティ推進係長 日比野 豊 環境保全係長 若山 愛美 環境政策係主事兼ゼロカーボンシティ推進係主事</p>
欠席者	長内 敏将 市内ISO14001認証取得事業者
傍聴者	0名
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・令和5年度小牧市環境年次報告書(案)

主な内容

1 あいさつ

- ・山本会長あいさつ

2 議題

(1) 令和5年度小牧市環境年次報告書(案)について

- ・事務局より「令和5年度小牧市環境年次報告書(案)」について説明
- ・質疑、主な意見は以下のとおり

(吉本委員)

毎年度改良が加えられ、少しずつ見やすくなってきた。

P8,9のBOD調査について、調査地点が市内のどこかわからないので地図を掲載し、調査地点を示してほしい。そうすると相対的な位置関係が、容易に把握できると思う。次年度以降に検討いただきたい。

P11市内の土壌汚染発生状況について、測定結果の最大値が基準に対して大きく上回っている。新聞でも目を通した記憶があるが、基準値と乖離があるので、コメントをつけたほうがいいのか。

P31の評価の「デコ活」について、二酸化炭素を減らすデカーボナイゼーションとエコを合わせた活動という意味で、最近新聞等で紹介されていたと思う。環境も踏まえた脱炭素の活動ということで、検索すれば出てくるが、説明を加えたほうがより分かりやすくなるのではないかと思う。

P34の下段の評価で、光化学オキシダントは環境基準が未達とあるが、数値の推移や環境基準については探せなかった。どこに書いてあるのか。

(事務局)

P8,9の調査地点の地図の記載について、ご指摘のとおりグラフだけでは場所がわかりにくい。河川と調査地点を入れると非常に細かくなってしまうのでどんな対応ができるかわからないが検討する。なお、少し小さくて見にくいですがP1の地図に河川名は記載している。

P11の土壌汚染については、周辺への拡散はないと聞いている。愛知県の公表資料でもあるので、発生状況や周辺環境への影響など、記載できる内容を検討したい。

P31の「デコ活」については、十分浸透している用語ではないので、注釈を追加する。

P34の光化学オキシダントについては、P32の指標で「大気汚染に係る環境基準達成状況」のうち0xが光化学オキシダントを指している。4項目中3項目は達成していて、光化学オキシダントだけが毎年未達成で達成率が75%となっているが、分かりやすい表記を検討したい。

(会長)

P11の土壌汚染について、あまりに不安が残る数値なので、測定結果の最大値では

なく最小値と最大値を記載してはどうか。

(事務局)

愛知県が公表した測定値しか記載できない。なるべくわかりやすい表現ができるよう検討する。

(石川委員)

P9 の BOD の年平均値で、大野橋の値が目立って高いので危ないのではないかと心配になってしまう。しかし P10 の環境基準を見ると、E 型の基準は十分満たしているから、実際には心配する程度ではないという判断ができるが、一般の市民の方には難しいため、環境的には問題ないといった文言があると安心すると思う。また土壌汚染について、基準値の何十倍といわれると心配になり、家庭菜園で何か作った時に、これを口にするとどうかなど不安が出てくるかもしれない。一般の市民の方がわかるような言葉で表現したほうが伝わる。

(事務局)

数字だけが独り歩きしてはいけないので、コメントを加えるなど検討したい。

(会長)

用語解説が P9, 10 にあるが、BOD は P3 に初めて出てくるためわかりづらい。用語解説の位置を修正できないか。

(事務局)

検討する。

(岡村委員)

P25 のエコポイント制度年間利用者数について、人数だけでみると達成が難しい。今後少子化も見込まれるとますます下がることも想定されるため、達成率という考え方もあるのではないか。

(事務局)

エコポイント制度については、環境保全の活動に取り組んだ市民に対して付与しているものである。実際の取組としては、市内 3 小学校に設置している地球温暖化対策地域協議会において、毎月 1 回各小学校で廃食用油の回収をしており、参加者に廃食用油の回収量によってエコポイントを付与している。おっしゃる通り、少子化の影響により小学校の児童数は減少しておりその影響も考えられる。今回の年次報告書は現計画の達成状況管理であるためこのままとするが、計画改定時に今回の意見を踏まえて、指標も含めて見直していきたい。

(馬場委員)

P4 下から 2 行目、「飛行機の運航が多いこと」について、10 年前と比べて、運航本数が減っていると感じているが、ここで飛行機の運航が多いと示された根拠がわかれば教えてほしい。

P8 下から 4 行目に、水質汚濁の要因が境川では事業場排水、西行堂川では下水道未整備区域から流入する生活排水と明言しているが、本当に事業場排水だけといえるのか、他に生活排水もあるのではないか。逆に西行堂川では下水道未整備区域から流

入する生活排水だけといえるのか、事業場排水もあるのではないかと疑問に思うので、このように記載された根拠を教えてください。

P25の指標「環境関連講座等参加人数」について、平成30年度の基準値が5,071人で令和2年度から4年度までは1,000人台となっている。徐々に増えているが、基準値を達成するには差があると思う。対象とした講座はどんな講座があるか教えてください。

P27の①環境教育・環境学習の体験活動の場や機会の提供で、「五感を使って観察を行い」とあるが、観察というのは視覚を使ったものなので、「自然と触れ合い」などとしたほうがいい。

P34の評価で「周辺環境の美観向上や市民への周知方法を検討する必要がある」とあるが、これはどこの課が検討するのか。具体的な取組があれば教えてください。

P40の外来種の駆除に「ジャンボタニシの駆除」とあるが、正式名スクミリングガイを入れてほしい。令和4年度にはオオキンケイギクの駆除も実施している。兒の森の活用促進にある自然環境観察人による定期観察会について、令和4年度参加者数は168人で、一般の方が65名、毎月約14人の方が参加してくれた。これらを追記してほしい。また、ジャンボタニシの駆除やヌートリア、アライグマなどの捕獲実績がわかれば教えてください。

(事務局)

P4の飛行機の運航について、過去との比較ではなく、県内の他の観測点との比較であり、飛行機の運航がないところもあるので小牧市は「多い」としている。

P8の水質汚濁の要因について、確かにどちらも事業場排水、生活排水もあるが、境川は汚濁負荷の多い事業場を何件か把握しており、他の地域に比べて汚濁要因に占める事業場排水の割合が多いと判断している。西行堂川では汚濁負荷の多い事業場はあまりないため、このような記載にしている。

P25の環境関連講座参加者数の講座の内容については、環境対策課で実施している親子を対象とした市民環境講座、リサイクルプラザで実施している常設体験教室やステンドグラスなどの体験講座、文化・スポーツ課で実施しているごみに関する内容の出前講座の参加者数をカウントしている。

P27の「五感を使って観察を行う」については、修正させていただく。

P34の周辺環境の美観向上や市民への周知方法について、実施部署は、同ページの上に記載の事業を実施している、小牧山課、文化財課、ごみ政策課がそれぞれ対応している。

P40のジャンボタニシの正式名称、オオキンケイギクの駆除、定期観察会の参加人数については追記修正する。昨年度の外来種の駆除件数について、ジャンボタニシは市内を複数エリアにわけて年3回程度委託により駆除を実施しており、ヌートリアは13件、アライグマは15件である。

(宮脇委員)

2030年、2050年のカーボンニュートラルに向けて、市民も取り組んでいかなけれ

ばいけませんが、地球温暖化の現状がどうなっていて、何をしなければいけないのか伝わらないため、グラフを入れるとわかりやすいのではないかと。

生物多様性について、国は 2030 年までに陸地と海洋の 30%を保全するという 30by30 を目標としている。また、全国 100 か所を自然共生サイトとして認定すると打ち出しており、愛知県でも 10 件程度選定しているとのことであった。市内にも東海自然歩道のあたりの湿地やマメナシの自生地があり、市も早く保全地域を打ち出していくなど取組を進めてほしい。

外来種についても、捕獲・飼育は良いが、放出してはいけない、最後まで責任をもって飼わなければいけないということを知らない人もいるので、しっかり周知をお願いしたい。

(事務局)

地球温暖化は待ったなしである。検討を進めている環境基本計画の見直しの中で記載し、目標を立てて取り組んでいきたい。

生物多様性についても、環境基本計画の中で地域戦略として策定し盛り込んでいく。

(酒井委員)

3つの地球温暖化対策地域協議会で廃食用油回収をやっている。どれくらいの量を回収できたかをポイントと合わせて記載してほしい。

(事務局)

P25の「エコポイント制度年間利用者数」指標、P27の「環境保全活動へのエコポイント付与」が該当部分になるが、表記を検討させていただく。

(今枝委員)

P17の「廃食用油回収事業」について、今小牧市ではバイオディーゼル燃料を使っていないのではないかと。

(事務局)

回収した廃食用油は使用用途を指定して売却しており、バイオディーゼル燃料の精製やせっけんの製造などに使用するよう、処理業者に対して仕様書で定めている。記載方法は事務局で検討したい。

(酒井委員)

リサイクルプラザで粉せっけんは作っているが、ハンドソープは市内で作っているのか。

(事務局)

業者がハンドソープを作っている。

(会長)

数値の表記だが小数点以下まで必要か。意味のある数値なのか確認してほしい。

(田上委員)

公表するということは子どもたちも目にするが、細かい数字だと分かりづらい。表だけではなく、グラフにするとより分かりやすくなると思う。例えば、P34 路上喫煙

禁止区域のパトロールは144日とあるが、年間日数なのかなど、細かいことだが子どもたちにもわかりやすい表現に努めてもらいたい。

環境教育・環境学習について、学校として地域とのつながりを再構築しているところである。先日大城小学校では八田川の水質調査を実施したが、地域の方が非常に協力的で、子どもは地域で育つということを感じた。

(事務局)

グラフ化等子どもも大人も見やすい資料づくりを心掛けたい。

環境教育に関しては、これからを担っていく子どもたちを育てることも重要なため、情報提供や地元とも話をしながら広く展開していきたい。

(事務局)

今回指摘いただいた内容について、修正内容を委員のみなさんに確認していただく。その他、全体の表現を見直し、軽微な修正は事務局でさせていただく。

3 その他

(1) 第三次小牧市環境基本計画等の中間見直しについて

- ・事務局より現状報告

以上